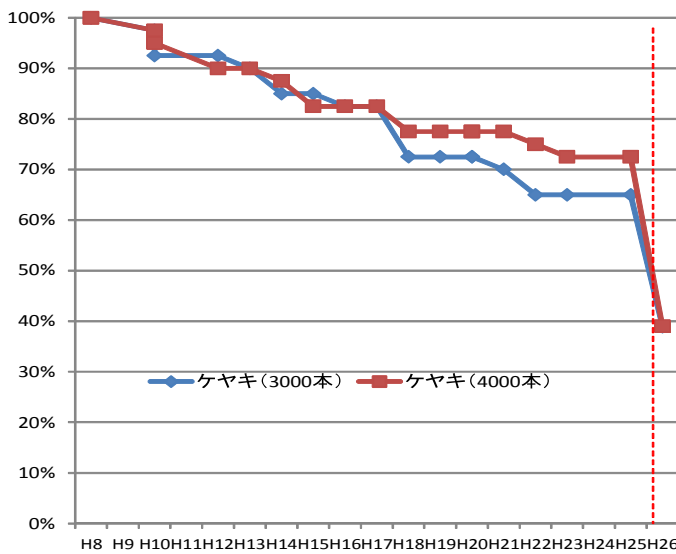


樹種名	ケヤキ	
科目	ニレ科	
学名	<i>Zelkova serrata</i>	
分布	本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国及び台湾に自生している。	
樹木特性	陽樹であるが、幼齢期は比較的耐陰性が高いが老齢期が進むに従って十分な日照が必要とされる。山地帯下部の渓谷沿いの斜面に生育することが多い。また関東ローム層の平地では特に成長が早い。	
用途	重要な建築材で桃山～江戸時代の社寺の建築に多く用いられた。器具・家具・船舶・彫刻・薪炭材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	638 本 / 0.21ha (3,000 本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 落葉高木であり、高さは 20~30m の大木になる。</p> <p>葉の鋸歯は曲線的に葉先に向かう特徴的な形であり、鋸歯の先端は尖る。雌雄同株で雌雄異花であり、花は 4 月から 5 月頃、葉が出る前に開花する。</p> <p>ケヤキは谷沿い、凹地等で石礫を含んだ崩積土あるいは石灰質の土地が最適地である。BD~BE 型土壌。天然生ケヤキがあるから適地とは限らない。土壌が深く、通気性、透水性の良好な適潤肥沃地で、主として中腹以下の緩傾斜地を植栽適地とする。土地に対する要求度が高い（肥沃で石礫を含む排水の良い土地）ため。</p> <p>材は堅牢緻密で木目が美しく、重硬で狂いがなく、湿気にもよく耐え、保存性が高いことから、重要な建築・器具材で特に社寺の建築に多く用いられる。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 2 年を経過した頃からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。植栽から 18 年を経過した現在の平均樹高は 10m を超える程度まで成長しているが、個体の優劣がはっきりしている。穿孔被害は多かったものの、枯死まではいたらない個体も多い。枝打ち試験を実施した。さらに、劣勢木を間引きし平成 16 年度に他の場所に移植した。	
被害	野兎・鹿の被害は特に無かった。 植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害を受けた。(延べ駆除本数：215 本)	

ケヤキ 現存率



【現存率】

植栽後 3000 本/ ha と 4000 本/ ha とともにコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生している。

林内の照度調整を図るため平成 21 年、22 年、23 年、24 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 38.9%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

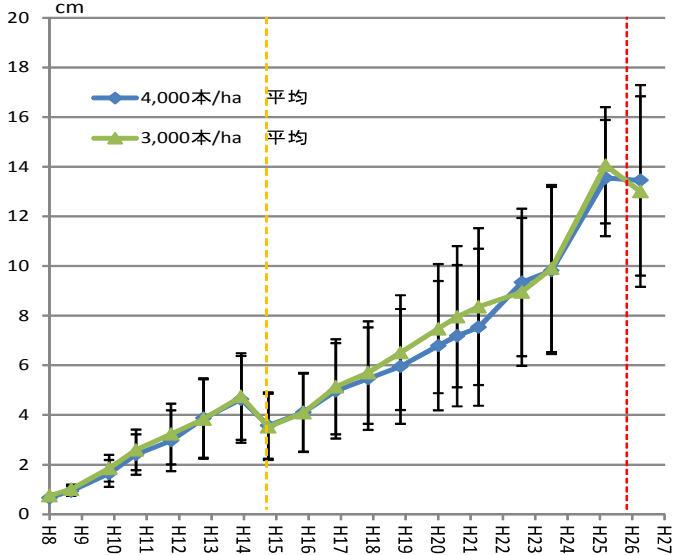
3,000 本/ ha と 4,000 本/ ha とともに良好に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、3,000 本/ ha の平均胸高直径は 13.00 cmであり、4,000 本/ ha の平均胸高直径は 13.45 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ケヤキ 根元・胸高直径



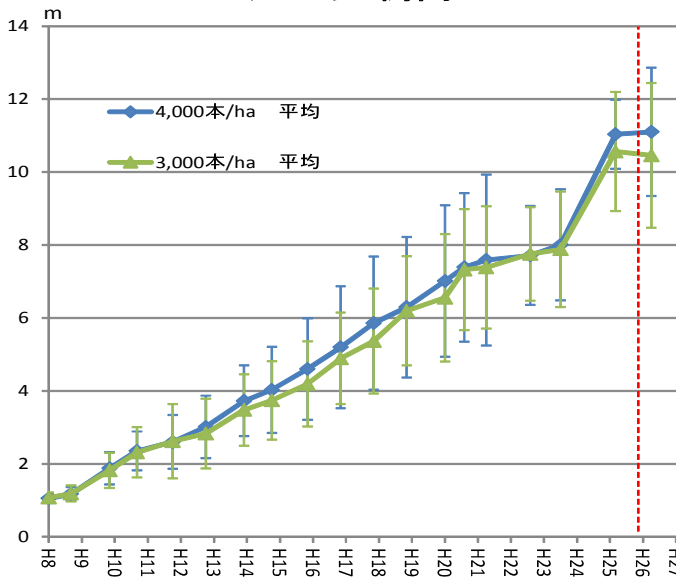
【樹 高】

3,000 本/ ha と 4,000 本/ ha とともに順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、3,000 本/ ha の平均樹高は 10.46mであり、4,000 本/ ha の平均樹高は 11.10mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ケヤキ 樹高

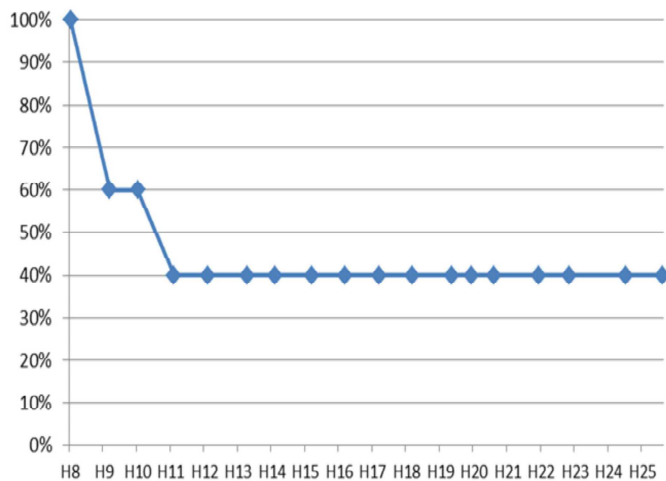


《プチ情報》

ケヤキの材は音響上の特性を利用して、太鼓、三味線、琵琶などの胴に使用される。戦前は軍用として利用が多く、軍政府が植栽を奨励したため、造林実績も多い。

樹種名	ケンボナシ	
科 目	クロウメモドキ科	
学 名	<i>Hovenia dulcis</i>	
分 布	北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり伐採すると切り株から萌芽する。また、果実を付ける柄（果柄）が不規則・勝手気ままに屈曲したように見えてむっちりとした肉を付け、これが甘くて食べられる点である。	
用 途	洋家具、家具指物（火鉢、文房具、机案等）、洋風建築及指物彫刻、木象嵌、三味線胴に利用。最高位に位置するクワの代替材として利用。 実・葉や幹は煎じて薬として利用されている。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	2本 / 0.0007ha (3,000本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】 落葉高木で樹高は15～20mになる。 樹皮は暗灰色～灰褐色で若いうちは滑らかだが、大木になると縦に浅く裂け薄く剥がれる。このような剥がれ方をする樹皮は他には少ないのが独特で、縦に裂けるだけで、剥がれない木もある。葉は互生し、左右に2回づつ葉の着くコクサギ型葉序になることが多い。葉身は広卵形で質はやや薄い。縁には低い鋸歯があるが、大きく波うつ場合もある。基部から分岐する3主脈が目立つ。6～7月に枝先から集散花序を出し、淡緑色の小さな花を多数開き果実は球形の核果だが、果肉はほとんど無い。代わりに果柄が太く折れ曲がって肉質になり、食べられる。果実は核果だが、果肉が無いので種子は大きく固い。</p>	
		
試験地での様子	ポット苗により植栽し、2本が現存している。	
被 害	特になし	

ケンポナシ 現存率



【現存率】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本が現存している。

【胸高直径】

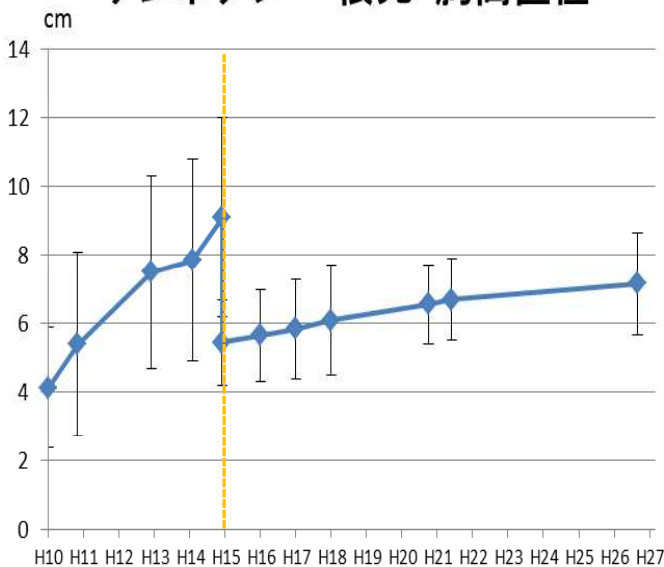
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本の平均胸高直径は、7.16 cm であり、順調に成長している。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

【樹 高】

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、2 本の平均樹高は、7.15m であり、順調に成長している。

ケンポナシ 根元・胸高直径



《プチ情報》

1 由来

ケンポナシは漢字表記では「玄圃梨」とあり、昔の日本ではテンポノナシと呼び、肥前ではケンポコナシと呼んでいたが、シーボルトは、計無保乃梨（ケンポノナシ）、別名を漢名「シグ」とした。さらに転訛して、ケンポナシとなったのが由来である。

2 薬としての効能

昔からケンポナシの実を沸かして茶にして飲むと、以下の効能があるといわれている。

- ① 酒による二日酔いの解消に名薬として紹介されている。アルコール中毒者の治療にも効果的であり、ケンポナシ茶を飲むと体内に残っているアルコールを迅速に分解し、肝機能を改善する卓越な効果を発揮する。
- ② さらに、肝細胞が損傷を受け機能に障害が発生すると黄疸が表われるが、肝機能を改善し体内に蓄積された毒素を除去する。
- ③ 血液改善に効果があり手足のしびれの改善、動脈硬化の予防や治療にも効果がある。
- ④ 小便をする際不便さや残尿感がある方がケンポナシ茶を飲むと気持ちよく小便ができるようになります。また、腸を刺激して大便を円滑にし宿便を除去し便秘にも良い。
- ⑤ ケンポナシの実をお湯で沸かしお茶にしてずっと飲むと筋肉を癒し、経絡（ツボをつなぐ）機能を活発化させ疲労回復を早める効果があり、慢性退行性関節炎と固まった筋肉をほぐしてくれる。

3 抽出成分の利用商品

ガムなどの原料にも利用されている。

ケンポナシ 樹高

